

国立病院機構熊本医療センター

No.154



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

新年度を迎えて

院長 池井 聡



日頃より先生方には多大のご指導とご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年度は新病院の竣工、移転がありましたが、皆様のおかげで新病院での診療も滞りなく行っています。旧病院別館は取り壊しが完了し、仮設駐車場に使用しています。現在、旧本館の取り壊し工事を進めています。跡地を本格的な駐車場に整備しますが、本年中には完成の予定です。また、ヘリポートも建設へ向けて調整中です。いましばらくは工事で色々ご迷惑をお掛けしますがご了承賜りますようお願い申し上げます。

4月には毎年多くの人事異動がありますが、本年度も30数名の医師の入れ替えがありました。しかし各診療科の部長・医長の交代はなく、これまで通りの体制で診療を行うことになりました。また、医師の増員を希望していましたが、麻酔科、眼科が1名ずつ増えただけで他の診療科は現状維持になりました。しかし多くの病院が引き上げ等で医師数不足に悩んでいる中、増員があった事を喜び、このメンバーで頑張りながら、さらに医師確保に努力する所存です。その他、病院幹

部では事務部長、副看護部長、企画課長が交代しました。新幹部はこのくまびょうニュースで順次紹介して参りますが、よろしくお願い致します。

今一番の心配事は私たちの所属している「独立行政法人国立病院機構」の今後です。政権が変わり「独立行政法人」の仕分け、見直しが行われております。国立病院機構は国立時代に比べて運営は大幅に改善されて来ていますが、厚生労働大臣からきわめて厳しい見方をされているようです。国立病院機構本部の理事長等が大臣と折衝を重ねていますが、今後、どのような方向に向かうのか分からない状態の様です。ただ私たちに出来ることは、地域の住民、医療関係者の皆様のお役に立てるように、粛々と診療を行い、地域医療を担う事以外にないと存じます。これからも運営方針である医療連携と救急医療の実践を推進し、患者・ご家族の皆様をはじめ地域の住民、医療関係者、行政等の信頼を得られるよう職員一同、力をあわせて努める所存です。

本年度も変わらぬご指導、ご支援を賜ります様お願い申し上げます。

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



「熊本医療センターと私」

医法) 森和会 森病院
院長 森 健太

熊本市街中心から、車で国道3号線を南に向かうこと約20分のところに位置する当院は、一般精神科194床の精神科病院です。急逝した前院長の父から、私が病院を継承してから約2年になります。

私が国立病院機構熊本医療センターに研修医の頃にお世話になったのは、もう10年ほど前になります。当時は交代で救急外来の当直のお手伝いをさせていただきましたが、びびりの私は緊張しすぎて、待機の夜は当直室のエアコンの音が、救急車のサイレンの音に聞こえ続けて、よく眠れなかったものです。また、病棟も年季が入っており、エレベーターの遅さにイライラしたものでした（研修医は階段でしたっ

け?)。

それからしばらくは医局の人事で、他県に行ったり、大学病院に戻ったりと、熊本医療センターからは遠ざかっていました。しかし最近、子供の受診（転倒・頭部強打！→激しい頭痛出現→たんこぶ）で久しぶりに熊本医療センターを訪れましたが、びっくりしました。なんと綺麗な病院！……できれば私も10年遅く医者になって、この熊本医療センターで研修医として、 트렌ディドラマのような Dr.ライフを送ってみたいかった（願望）……。

しかし、それは叶わぬ夢なので、せめて熊本市南部の一角で、自分の理想とする精神科病院をつくることに情熱を注ぎたいと思う、37歳の春を迎えるパパなのだ！。

今、森病院では「患者様に笑顔を！」を新しいスローガンに、日々努力をしております。

「患者様に笑顔で接し、患者様が笑顔になる森病院」を目指します。

最後にはなりますが、近隣の諸先生方、熊本医療センターのスタッフの皆様には、日頃よりのご指導、ご鞭撻のほど、誠に感謝しております。また、熊本の高度医療の中核として、今後とも国立病院機構熊本医療センターの益々のご発展を祈念申し上げます。

FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受診日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願い申し上げます。

(経営企画室長 中村 敦)

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

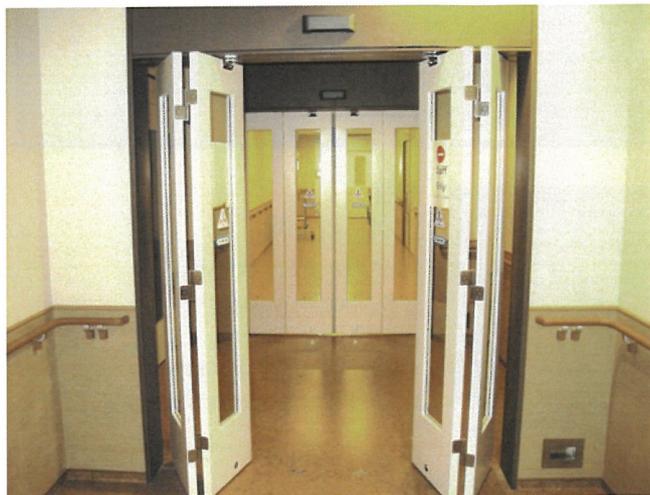
新病院施設紹介〈5〉

無菌室

1. 無菌室位置図



2. 無菌ユニットへの入口



3. 病棟



血液診療に欠かせない無菌室は、旧病院では前室を備えたクラス100無菌室が1室、クラス10000が8室で、重症血液疾患が続くときには苦しいやりくりを迫られることがしばしばありました。新病院移転に伴い血液病棟に15床からなる無菌ユニットが設置されました。ユニット内部は廊下天井に設置されたHEPAフィルターにより全体がクラス10000となっており、2カ所のアクセスは2重扉で仕切られ内部のクリーン環境を保っています。これにより従来は無菌管理のため部屋から出ることができなかった患者さんが、廊下の散歩をしたりシャワーを浴びたりすることが可能になりました。またユニット内部にはナースステーションがあり迅速な対応が可能となっています。さらに、この無菌ユニット以外にも血液病棟本体の個室のうち2床はクラス10000の無菌室として可能な要件を備えており、最大

4. 病室



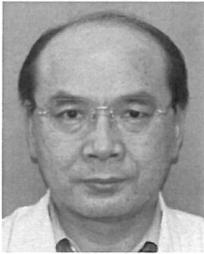
5. ナースステーション



17床の無菌室体制が可能となったため従来に比べ余裕を持って運用してゆくことが可能となりました。

(血液内科医長 日高 道弘)

2010 診療科紹介 (23) 麻 醉 科



部長
江崎 公明
麻酔科一般、救急医療
日本麻酔科学会指導医
日本麻酔科学会専門医
日本救急医学会救急科専門医
日本救急医学会九州地方会評議員



医長
瀧 賢一郎
麻酔科一般、集中治療
日本麻酔科学会指導医
日本麻酔科学会専門医

診療内容・特色

1. 手術室・麻酔

手術内容は、総合病院としてあらゆる臓器への手術が可能になっています。なかでも内視鏡下の手術（外科、耳鼻科、泌尿器科、産婦人科）が多いのが特徴になっています。また骨髄移植の技術を利用した閉塞性動脈硬化症患者への血管新生療法や形成外科と各科との連携のもとで皮膚による食道再建などの新しい形成治療法が選択できるようになりました。他にICU、透析室の完備を背景に外傷、急性冠不全、脳出血などへの救急医療手術や患者様の要求に応じた日帰り手術にも万全をきして取り組んでいます。一方、安全な麻酔管理として高度な呼吸・循環モニター装備はもちろんとして、ほかにBISという麻酔深度計(脳波計)を導入して患者様への確実な全身麻酔の保障を行っています。

2. 麻酔科外来（ペインクリニック）

種々の痛みに対して神経ブロック療法を中心に考えていますが痛みが局在的であり出血傾向がないことが適応になります。補助療法として向精神薬・麻薬・漢方薬などの内服を併用しています。最近、抗凝固療法をされている方が多く神経ブロック不適のため内服療法をすることが多くなっています。そのため帯状疱疹後神経痛にたいする疼痛緩和療法として麻薬であるリン酸コデインによる内服療法による治療実績が集積されています。



医長
上妻 精二
麻酔科一般、ペインクリニック
日本麻酔科学会指導医
日本麻酔科学会専門医



医師
宮崎 直樹
麻酔科一般
日本麻酔科学会専門医



医師
小寺 厚志
麻酔科一般
日本麻酔科学会認定医
外科学会認定医

痛みの相談：火・木曜日（上妻）

慢性難治性疼痛、帯状疱疹および疱疹後神経痛
腰下肢痛、ボツリヌストキシン療法など

手術前麻酔相談：月・金（瀧・江崎）

癌性疼痛緩和外来：火（内科 榮）・木（上妻）

3. ICU（瀧室長）

術後および救命救急センター外来からの重症患者を管理する6台のベッドがあります。管理は、疾病当該科から主治医を選び、急性期を乗り切るまで補助循環、血液浄化、人工呼吸などを循環器科、腎臓内科、麻酔科が補助するかたちでICUが運営されています。

診療成績

平成20年度は、手術室7室（ベッド9台）を使って麻酔専門医5名、看護師25名のスタッフのもとで年間4,264例（麻酔管理例3,358例、緊急手術538例）の手術を行っております。

平成21年9月に新病院（手術室10室）に引っ越しましたが、症例の増加は、続いているようです。

研究実績

「国立病院機構における手術麻酔の現状に関する研究」（平成21年度国立病院機構共同臨床研究）

ご案内

上妻先生の外来日に、眼瞼痙攣、顔面痙攣に対するボツリヌストキシン療法を行っています。また、平成22年より火曜日（内科 榮）、木曜日（上妻）に癌性疼痛にたいする緩和外来が開設されています。



国際医療協力

「平成21年度AIDSの予防及び対策コースA」研修コース終了報告

国立病院機構熊本医療センターは、国内唯一の国際医療協力基幹施設として、JICA（国際協力機構）、JICE（日本国際協力センター）及び熊本県と連携し、積極的に国際医療協力を推進しています。

平成22年2月27日より「平成21年度AIDSの予防及び対策コースA」10名が、当院の研修棟に宿泊しなが

ら3月21日まで研修を行いました。

本研修は、AIDSの予防及び対策を担当する行政官を中心にAIDSの予防疫学、検査技術、治療、世界的な状況および対策について理解し、自国のAIDS対策に係る計画策定能力が向上されることを目的とします。
(庶務班長 牧野 功)

【平成21年度 第2回 『AIDSの予防及び対策A』研修コース】

2010.2.27～2010.3.21

写 真	氏 名 (国名)	職業・所属等	写 真	氏 名 (国名)	職業・所属等
	Dr. Liseth Lourdes Arias Lopez リース リース (ボリビア)	人間開発研究所 研究部責任者		Dr. Luiza Harunari Matida ルイザ (ブラジル)	サンパウロSTD/ AIDS国家プログラム HIV母子感染調整官
	Dr. Savio Bezerra De Souza サヴィオ (ブラジル)	サンホセ病院 AIDS担当医師		Dr. Beatriz Eugenia Solorzano Arevalo ベアトリス (エルサルバドル)	保健省 ロザレス国立病院 感染症サービス、 専門医
	Dr. Vranceanu Benes Angela アンジェラ (モルドバ)	予防医学国立科学実 践センター 疫学部 上級科学研究者		Dr. Svetlana Popovici スベタ (モルドバ)	国立皮膚性病学セン ター HIV部長
	Dr. Ramesh Kumar Kharel ラメッシュ (ネパール)	保健人口省 国立AIDS・STD対 策センター 副部長・上級保健管 理官		Mr. Dilli Raman Adhikari ディリィ (ネパール)	保健人口省 国立AIDS・STD対 策センター 上級公衆衛生官
	Dr. Maribel Rosario Fuertes Ygnacio マリベル (ペルー)	リマ市保健ネットワ ーク 疫学チーム 調整官		Dr. Zabikhulla Inogamov ザビ (ウズベキスタン)	国立AIDS対策センター 伝染病予防対策課 疫学者

最近のトピックス

「白内障」と「緑内障」の関連性について



眼科医長
青木 浩則

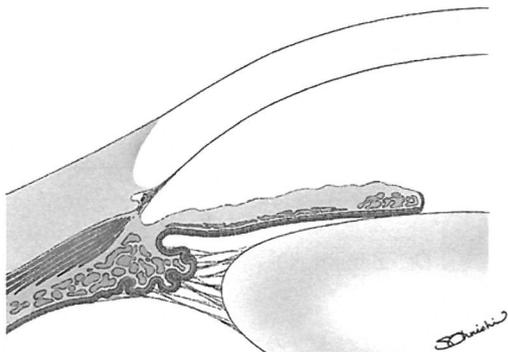
「白内障」と「緑内障」これに結膜炎を加えると眼科を受診する患者の大半がカバーできるほどメジャーな疾患です。

もともとはもちろん別個の疾患ですが、今回は「緑内障治療のために白内障の手術をする」話です。白内障は皆様ご存知のとおり水晶体（図1 眼球断面図参照）が混濁して視力が低下する疾患で、現在の治療法は手術しかありません。一方、緑内障は「眼圧が上昇して視野が狭くなる疾患」と以前は定義していましたが、20年くらい前から眼圧は高くないのに視野が狭くなってしまふ正常眼圧緑内障が注目されるようになりました。このため学会では「高眼圧」という語句をいれずに次のように緑内障の定義を決めています。「緑内障は、視神経と視野に特徴的变化を有し、通常、眼圧を十分に下降させることにより視神経障害を改善もしくは抑制しうる眼の機能的構造的異常を特徴とする疾患である」。私は眼科医を20年以上やっていますが緑内障は難しいものだ改めて感じます。さて、いずれにしても緑内障の治療は眼圧を下げて視野が減少しないようにすることです。緑内障は隅角の広い「開放隅角緑内障」（図2）と隅角の狭い「閉塞隅角緑内障」（図3）の2つのタイプに分類されます。ここで白内障と

関係してくるのは急性閉塞隅角緑内障です、このタイプの緑内障は急激に眼圧が上昇し激しい頭痛を生じるため最初は内科や脳神経外科を受診することがあります。眼科を受診していただき隅角の閉塞と眼圧が高いことを確認できれば診断が確定します（早期の場合は視野障害のない緑内障の前段階なので急性原発閉塞隅角症：APAC=acute primary angle closureともいいます）。治療は従来レーザーによって虹彩に小さな穴をあけることにより発作を生じないようにしていました。しかし、レーザーをしても徐々に眼圧が上昇するタイプがあり、必ずしもレーザー治療のみで緑内障の進行を抑えることができないケースがあります。その際は隅角を広げるために水晶体を摘出し厚みの少ない眼内レンズに入れ替えることが有効です。白内障手術により水晶体の容積分だけ隅角のスペースを広げられるため緑内障の予防に威力を発揮します。最近是小切開白内障手術が普及し手術時間が短くて済むようになったこともあり、緑内障発作の場合最初から白内障手術を行うこともあります。先生方がもしも「緑内障治療のために白内障の手術を勧められた」と耳にされてもあながち患者さんの思い違いとばかりはいえないかもしれません。

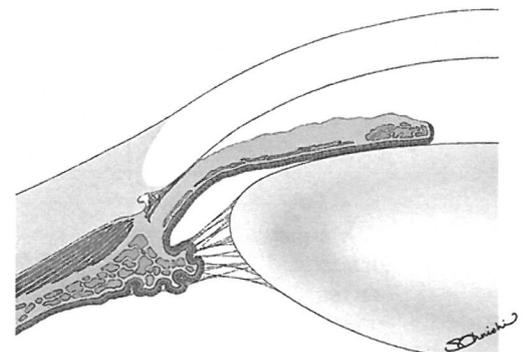


図1
眼球水平断面図



Copyright © Santen Pharmaceutical Co., Ltd.

図2 開放隅角



Copyright © Santen Pharmaceutical Co., Ltd.

図3 閉塞隅角

退任のご挨拶



事務部長
井坂 安利

4月1日付けで九州厚生局に出向することになりましたが、先生方には、当院に平成20年4月に赴任して以来2年間大変お世話になり厚く御礼申し上げます。特に先生方からご紹介いただきました患者様が安心して受診できるようにと心がけてまいりましたが、いろいろな面でご迷惑をおかけしたのではないかと考えております。

昨年9月から新病院で診療を開始しておりますが、

この新病院整備、そして移転に事務部長として関わったことは、私にとって一生の思い出であります。一方、思いがけず整備途中で替わることは私にとって心残りであり、最終的な整備まで関わりたいというのが正直な気持ちであります。

今後、駐車場とヘリポートの整備を行うこととしておりますが、駐車場につきましては、早ければ本年末には完成する予定です。また、当院は、救命救急センター及び災害拠点病院ということから当初計画にありましたヘリポートにつきましても、本年度末を目途に整備することとしております。これらの整備につきまして、先生方のご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、地域の医療機関及び先生方には、今後とも国立病院機構熊本医療センターの運営にご協力いただきますよう、併せてお願い申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。



企画課長
森 幸一

22年3月31日を持ちまして、国立病院機構熊本医療センターを去ることになりました。17年4月より5年と長い間、皆様のご支援を頂きありがとうございました。

17年4月から20年3月までの3年間は、医事において病診・病病連携で地域の医療機関の先生方に、紹介しやすい病院、また利用しやすい病院をめざし、事務として関わりましたが、お役に立てたかは疑問の残るところです。

また、20年4月から22年3月までの2年間は、企画として新病院の建築、新病院移転及び駐車場の整備の

仕事に携わってまいりました。新病院の移転では、多くの皆様のご協力により、21年9月の5連休で無事移転できたことが、今になってしまえば懐かしく思い出されます。

現在、旧病院を取り壊しその後に駐車場の整備を進めていますが、駐車場の完成には、まだ、1年が必要となります。正面玄関及び仮設駐車場への通路が、一部未舗装で水たまりがありご不便をお掛けしていますことをこの場をかりてお詫びいたします。

最後になりましたが、在任中の5年間いろいろご指導、ご鞭撻頂きありがとうございました。

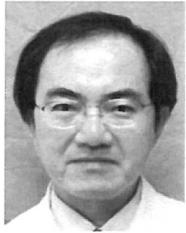


ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

新任職員紹介



内科(臨床検査科)医長

つる た とし ひさ
鶴田 敏久

平成22年4月から臨床検査科に勤務させて頂いております鶴田敏久と申します。

昭和60年に東京医科大学卒業し、東京女子医科大学第二病院(現東医療センター)小児科で初期研修後、東京大学(医科学研究所)内科大学院に進み、造血幹細胞移植を中心とした細胞療法の臨床と遺伝子研究の

基礎を学びました。長年、東京で小児の血液・腫瘍(特に脳腫瘍)を専門として、小児(細胞移植)科、輸血(細胞プロセッシング)部、脳外科、分子療法分野などで臨床と研究を行っていましたが、一昨年、生まれ故郷の熊本へ戻って参りました。帰郷と同時に、当院内科にお世話になり、出向という形で、2年間、九州厚生局で臨床研修審査専門官の仕事をさせて頂きました。当院では総合診療科として外来診療や外来化学療法に関する仕事をさせて頂いておりました。今回の臨床検査科では、東京女子医科大学輸血部などでの経験を生かし、診療支援部門としても少しでも皆様のお役に立つ仕事が出来ればと考えております。何卒よろしくお願い致します。



泌尿器科

たに がわ ふみ き
谷川 史城

平成22年4月泌尿器科で勤務することとなりました谷川史城と申します。

平成12年熊本大学医学部を卒業し、同年熊本大学泌尿器科に入局いたしました。以後、大学病院、熊本赤

十字病院で研修医として勤務した後、水俣総合医療センター、野尻会熊本泌尿器科病院、下関厚生病院で泌尿器科専門医として勉強させて頂いてきました。

特に、新町の熊本泌尿器科病院勤務の折は、総合病院での専門治療を要する患者さんを当院で病病連携で快く診療してもらい、非常に感謝しております。

熊本医療センターでは、救急医療、泌尿器がん診療を中心に、熊本県内の先生方のお役にたてるよう微力ではありますが努力していきたいと考えております。

ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



感覚器センター

眼科

たか はし えり
高橋 枝里

平成22年4月より眼科に勤務することとなりました高橋枝里と申します。

平成14年熊本大学医学部卒業後熊本大学眼科に入局し、熊本大学付属病院、熊本中央病院において研修を

行い、再度熊本大学付属病院勤務を経て、平成17年熊本大学医学薬学教育部大学院に進学しました。癌の転移や臓器の線維化に関わる現象(上皮間葉転換)をテーマに基礎研究を行い、本年3月に学位を取得しました。卒業後9年目になりますが、眼科医としてはまだ駆け出しです。1日も早く、患者さんの不安や心配を軽減できるよう、初心に立ち返り精一杯頑張りたいと存じます。至らない点も多く、色々ご迷惑をお掛けすると思いますが、どうぞ御指導御鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



整形外科

もり た まこと
森田 誠

平成22年4月より整形外科で勤務しています森田誠です。

平成15年に福岡大学医学部を卒業し福岡県内数か所の病院で研修後、平成17年に熊本大学整形外科に入局

させて頂きました。入局後は大学病院に2年間勤務後、熊本赤十字病院、熊本労災病院、公立玉名中央病院と1年ごとに勉強させて頂き、今回熊本医療センターでお世話になることになりました。また新しい環境となり気持ちを新たに頑張っていこうと思っております。

整形外科の中でのまだ専門分野などはなく、知識と技術を研鑽していく身であり、整形外科全般を勉強中です。病診連携などでご迷惑をおかけし、お世話になるかとおもいますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新任職員紹介



泌尿器科

くわ た とも こ
鍛田 知子

平成22年4月1日より、当院泌尿器科で勤務にあたることになりました鍛田知子と申します。

平成16年3月に久留米大学医学部を卒業し、同年4月より2年間は初期研修として熊本大学医学部附属病院と熊本地域医療センターで研修を終えた後、平成18

年4月に熊本大学泌尿器科に入局いたしました。その後1年間を大学、平成19年4月より1年間を熊本赤十字病院、平成20年4月から2年間を下関厚生病院でお世話になってまいりました。

当院が「断らない医療」を掲げているとのことで、これまで以上に豊富な症例を経験できる機会に恵まれることに期待を抱きつつ不安もあります。諸先生方にご迷惑をおかけすることがあると思いますが、御指導・御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

また、私は県内では2人目の泌尿器科女医となりますが（現在3名）、そういった意味でも何かしら地域医療に貢献していけたらと思っていますので、宜しく願いいたします。



麻酔科

なか やま ゆう じ ろう
中山 優二朗

4月から麻酔科勤務となりました中山雄二朗と申します。

鹿児島大学を卒業し、熊本赤十字病院で2年間の初期研修を終えた後、麻酔科医として熊本赤十字病院、熊本大学附属病院、熊本市市民病院に勤務しました。それぞれ

の病院が特色を持っており、通常の成人麻酔から小児・新生児麻酔や帝王切開などの周産期麻酔、そして小児心臓麻酔などの特殊な麻酔まで色々な経験をさせていただきました。

当センターは救急搬送が大変多いとのことで、緊急手術も数多く行われていると聞いております。熊本赤十字病院も緊急手術の多い病院でしたが当センターに搬送されてくる数多くの急患を助けることができるようこれまでの経験を生かしてがんばりたいと思います。

新しい病院に慣れるまで時間がかかると思いますし、その他もいろいろとご迷惑をおかけすることも多いと思いますがどうぞよろしく願いいたします。



脳神経センター

脳神経外科

なか がわ たか し
中川 隆志

平成22年4月より脳神経外科で勤務することになりました中川隆志と申します。

平成17年3月長野県の信州大学医学部を卒業後、京都第二赤十字病院で2年間の初期研修を終え、平成19年4月より熊本大学脳神経外科に入局しました。私自

身は益城町の出身ですが、一度立命館大学法学部に入學、そこで山と医学の道に目覚め、信州大学医学部へ再入学しました。京都での研修を終えた後、再び故郷の熊本へ戻ってきました。

大学病院で1年間勤務した後、荒尾市民病院、人吉総合病院を経て、今春より当センターで勉強させていただくことになりました。当センターで豊富な症例を経験させていただくことにより自分の技術を磨き、幅広く深い知識が持てるように努めたいと思います。また、患者様やご家族の不安な気持ちに少しでも寄り添っていけるような医師になれるよう頑張りたいと思います。何とぞご指導ご鞭撻下さいますようよろしくお願い申し上げます。



小児科

おか だ たく み
岡田 拓巳

平成22年4月より小児科でお世話になっている岡田拓巳と申します。

平成18年熊本大学医学部卒業、同年岸和田徳洲会病院にて2年間の初期研修。その後、独立行政法人長崎

医療センターにて内科と小児科をレジデントとして勤務し、今年熊本大学小児科医局に入局しました。医師としては5年目、小児科医として2年目になります。

今回主にアレルギー疾患や小児悪性疾患の勉強をさせていただくためにこちらでお世話になっております。まだまだ不勉強で足りない部分も多々ありますが、患児やその家族が少しでも笑顔でハッピーになれるような治療を、頭絞って、周りを巻き込んで最大限頑張ろうと考えています。

病院自体も学生の頃に見たイメージと全く変わっており、たくさんご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

新任職員紹介



糖尿病・内分泌内科

しま かわ あき こ
島川 明子

平成22年4月より、糖尿病内分泌内科でお世話になることとなりました島川明子と申します。

平成19年に佐賀大学医学部を卒業しまして、佐賀大学医学部付属病院で2年間卒後研修を行いました。平成21年より熊本大学医学部付属病院代謝内分泌内科で1年間

勤務しておりました。医師としては、今年で4年目となり、代謝内分泌内科を専門としてからは、2年目となりました。

平成21年度は大学病院で糖尿病、内分泌疾患について学ばせていただき、まだまだ未熟ながらも、成長できた部分が多かったと感じております。

国立病院に勤務となり、システム、環境が変化することで、不安を感じることもあります。実りある時間を過ごし、医師として研鑽を積んでいきたいと考えております。

ご迷惑をかける点もあるかと存じますがよろしく願います。



心臓血管センター

循環器科

ひら た よし ひろ
平田 快紘

平成22年4月より循環器内科に勤務させて頂くこととなりました、平田快紘と申します。

平成19年3月に熊本大学医学部を卒業後、研修医として国立病院機構熊本医療センターで2年間研修させ

て頂きました。その後熊本大学循環器内科に入局し、1年間熊本大学医学部付属病院で勤務させて頂きました。

今回、再度国立病院に勤務させていただくこととなり、懐かしい反面、新病院であり自分の知っている国立病院ではないという不安も若干あります。救急症例、PCI件数など増加しているとのことで、まだまだ未熟者ではありますが、一生懸命頑張っていきたいと考えております。皆様にご迷惑をかけることもあるかと思いますが、ご指導・ご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い致します。



消化器病センター

消化器内科

よし なり もと ひろ
吉成 元宏

平成22年4月から消化器内科で勤務することになりました吉成元宏です。学生時代はラグビー部で汗と泥まみれになってボールを追いかけ、仲間達と青春を過ごしました。平成19年に久留米大学医学部を卒業し、

久留米大学病院で前期臨床研修を2年間修了しました。地元が熊本であることと、心機一転頑張っていきたい思いもあり、平成21年から熊本大学附属病院消化器内科に医員として入局しました。仕事と環境になれるまで少し時間はかかりましたが、あたたかい先輩、同期、研修医の先生方に支えられ、これまで充実した生活を送る事ができました。消化器内科医としてまだまだ未熟であり、先生方にはいろいろと質問することもあるかと思いますが、ご指導宜しくお願い致します。これかも明るく頑張っていきたいと思しますので宜しくお願い致します。



麻酔科

いし むら たつ ひろ
石村 達拓

この4月より、熊本医療センター麻酔科所属になる石村達拓です。

2007年3月に熊本大学医学部を卒業し、同年4月から熊本大学医学部附属病院で2年間の卒後臨床研修を

受けました。2009年4月から熊本大学医学部附属病院麻酔科で医員として勤務しました。大学病院では長時間の手術が多く、特殊な疾患を持った患者様の手術もあり、細やかな全身管理を必要とする症例を多く経験することができました。

熊本医療センターに着任するにあたりまして、数多くの急患を受け入れている病院ですので、ますます安全に配慮した麻酔を行って熊本の医療に貢献できるよう努力する所存です。

新しくなったばかりの手術室で、身も引き締まる思いです。よろしく願います。

研修のご案内

第104回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

[日本医師会生涯教育講座 1単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成22年4月15日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「調剤薬局における糖尿病治療薬の注意点」

熊本県薬剤師会調剤薬局

永里 綾子

2. 「バセドウ病と1型糖尿病を合併した多腺性自己免疫症候群Ⅱ型の一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

豊永哲至・花谷聡子・児玉章子・高橋毅・東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5705

第135回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

[日本医師会生涯教育講座 単位認定]

日時▶平成22年4月19日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例検討「半月体形成を伴ったアミロイドーシスの一例」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科

田尻 恵子

4. ミニレクチャー「リンパ腫診断でのPETの有用性について」

国立病院機構熊本医療センター血液内科

井上 佳子

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第1回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

[日本医師会生涯教育講座 単位認定]

日時▶平成22年4月24日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：熊本県医師会

岡本 喜雄 先生

演題：「ショック」

1. 循環動態とモニター

国立病院機構熊本医療センター 麻酔科部長

江崎 公明

2. 各種ショックの診断と治療 -Cold Shock-

国立病院機構熊本医療センター 救急科医長

原田 正公

3. 各種ショックの診断と治療 -Warm Shock-

国立病院機構熊本医療センター 麻酔科医長・集中治療室長

瀧 賢一郎

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

2010年

研修日程表

4月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

4月	研修センターホール	研修室	その他
1日(木)			7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
2日(金)			8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
5日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
6日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
7日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
8日(木)			7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
9日(金)			8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
12日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
13日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:30 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2 18:30~21:00 泌尿器科・放射線科合同プログラム C1
14日(水)	18:00~19:30 第62回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルバス研究会(公開)		17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
15日(木)		19:00~20:45 第104回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座 1単位認定] [日本糖尿病学会指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
16日(金)			8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
17日(土)	13:30~17:00 第78回 ナースのための救急蘇生法講座 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 他		
19日(月)	19:00~20:30 第135回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座 単位認定]		8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
20日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
21日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
22日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
23日(金)		18:30~20:30 熊本地区核医学技懇話会(研2)	8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
24日(土)	15:00~17:30 第1回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座 単位認定] 座長 熊本県医師会 岡本 喜雄 「ショック」 1. 循環動態とモニター 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 2. 各種ショックの診断と治療 -Cold Shock- 国立病院機構熊本医療センター救急科医長 原田 正公 3. 各種ショックの診断と治療 -Warm Shock- 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・集中治療室長 瀧 賢一郎		
26日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
27日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
28日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
30日(金)			8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)